

株式会社 外為どっとコム

セキュア環境とDell ThinPCの導入で 情報漏洩を徹底的に防御

ユーザビリティとスピードを損なわずにセキュリティを強化する
Dell ThinPCソリューションのメリットを活用

個人情報保護に関するプライバシーマークを取得するなど、かねてより積極的に情報漏洩対策に取り組んできた外為どっとコムは、その管理体制を徹底する手段としてデルの「Dell ThinPCソリューション」を導入した。これを機に、汐留本社および有明データセンターのサーバ環境を刷新。さらに、主要なLAN環境をすべてギガビットEthernetにするなど、システム運用体制の全面的な強化を図った。



外為どっとコム

インターネット専門の外国為替保証金取引サービスを軸に2002年に設立。個人投資家向けにリアルタイム・レートによるオンライン取引サービスを提供する。2005年12月には、金融先物取引業者として財務局への登録を完了。

背景

為替取引システムをASPサービスとして証券会社などにも提供するようになり、情報漏洩対策がますます重要な課題となった

ソリューション

セキュアな環境を実現するWindowsサーバ・システムの導入と
Dell ThinPCソリューションによるクライアント端末のネットワーク・ブーム化

期待効果

- Active Directoryなどと連携し、ユーザが使用するクライアント端末のローカル・ハードディスク上にメールやファイルなどのデータを一切保存させない運用が可能となる
- サーバ側でのシステムの一元管理を実現することで、IT部門の運用管理負荷を軽減

デル選定のポイント

- ネットワーク・ブーム型のクライアント端末であるDell ThinPCは、通常のPCと変わらない操作感で使用でき、そのパフォーマンスを最大限に活用することが可能
- Windowsベースで開発してきたアプリケーション資産をそのまま利用できる

システム構成

- 汐留本社：Dell Optiplex GX280 (Dell ThinPC)×100台、
PowerEdge 1850×4台、PowerEdge 2850×2台、
Dell | EMC CX300×1台

致命的な損害を招く 情報漏洩への対策が急務

2005年7月に改正された金融先物取引法により、外国為替保証金取引を行う業者に対して財務局への登録が新たに義務づけられた。これにより、インターネット専業として同サービスを提供し、開業から3年で急成長を遂げた外為どっとコムを取り巻く状況も大きく変わってきた。従来にも増してコンプライアンス（法令順守）への対応が強く求められるようになったのである。

なかでも急務の課題が、情報漏洩対策だ。外為どっとコムでは、「プライバシーマーク」（Pマーク）を取得するなど、早くから情報漏洩を防止するために社内の管理体制を整備してきた。しかし、それでも十分とは言えない。同社システムグループで副部長を務める大嶋一彰氏は、セキュリティ強化の必要性を次のように語る。

「万が一にも顧客の個人情報が流出するようなことがあれば、せっかく右肩上がり続けてきた成長は即座にストップし、廃業に追い込まれることもあります。特に我々は、外為取引システムをASPサービスとして証券会社など6社に提供しているため、情報漏洩の損害は自社だけにとどまらないのです」

1分1秒を争う為替取引では レスポンスが命

具体的に懸念されていたのは、Pマークにも規定されている「各クライアント端末に個人情報を残さない」という制約条件への物理的な対処である。そこで同社が目にしたのが、シン・クライアントによる情報保護のアプローチだ。ローカルにハードディスクを持たないシン・クライアントであれば、ユーザは各自の端末に個人情報を一切残さずに業務を行うことができる。もっとも、一口にシン・クライアントといってもネットワーク・ブート型やブレードPC型などさまざまなタイプがあり、特性が異なる。いかに業務に適した機能や仕組みを持ったシステムを導入するかが重要なポイントとなるのだ。外為どっとコムは、ベンダー数社から提案されたシン・クライアント・システムを比較検討し、最終的にデルの「Dell ThinPCソリューション」（以下、ThinPC）の採用を決定した。

「1分1秒を争う為替取引業務では、端末のパフォーマンスが命となります。動画のストリーミング・データを扱うといった要件もあり、ブレードPC型などの画面情報を転送するシン・クライアント・システムではパフォーマンス面で不安がありました。また、

業務の生産性を損なわない
パフォーマンスの良さが、
Dell ThinPC導入の
決め手となりました

——大嶋一彰氏

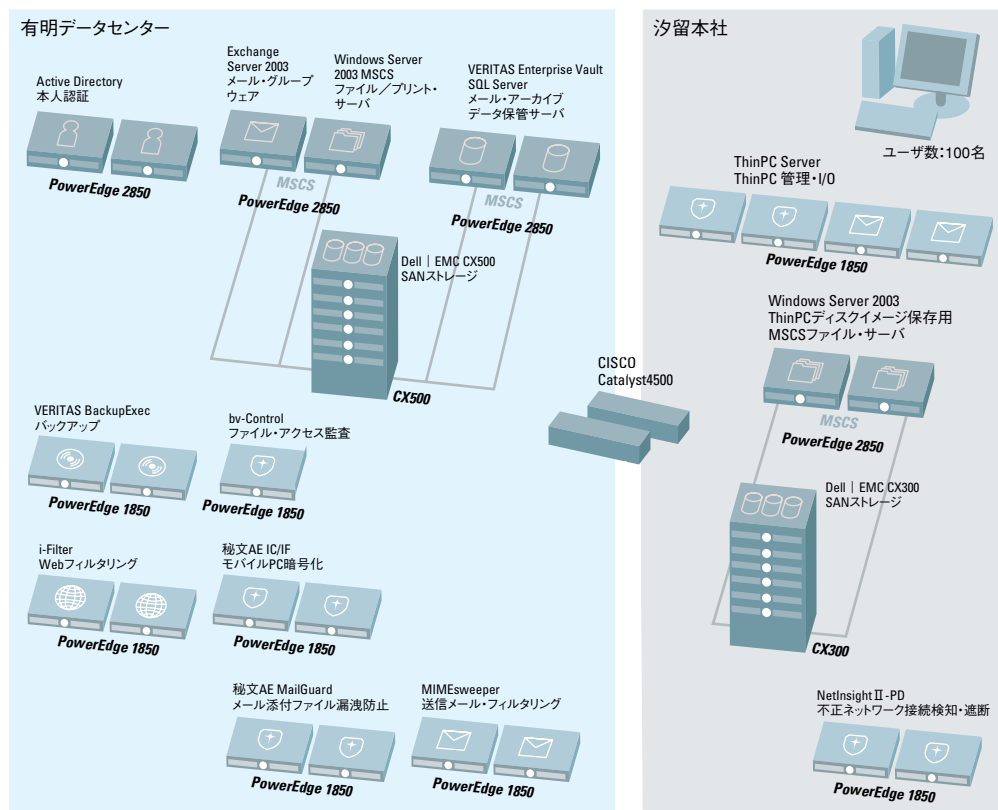


外為どっとコム システムグループ 副部長
大嶋一彰氏



外為どっとコム システムグループのスタッフとデルの担当者。外為どっとコム システムグループのチーフ 牧野講平氏（前列左）、副部長 大嶋一彰氏（前列右）、川俣陽平氏（中列左）、井元晋氏（中列右）、デル 法人営業本部 東日本営業部 アカウントエグゼクティブ 石田秀一（後列左）、デル・プロフェッショナル・サービス事業部 コンサルティング第2部 コンサルタント 橋本直敬（後列右）

外為どっとコムに導入されたThinPCのシステム構成



Windowsベースで
開発したアプリケーションを
変更することなく導入できる
Dell ThinPCは、
非常に魅力的でした

——大嶋一彰氏

対策内容と対応製品

対策内容	対応製品
本人認証	Windows Server 2003 Active Directory
クライアント端末管理	Dell ThinPC 秘文AE Information Cypher/Information Fortress
データ取り扱い範囲規定	Windows Server 2003ファイル/プリンタ・サーバ
ログ取得と監査	bv-Control Exchange Server 2003 / VERITAS EnterpriseVault
重要データ保護	VERITAS BackupExec
Web経由での情報漏洩	i-Filter
メールでの情報漏洩	MIMESweeper 秘文AE Mail Guard
不正端末接続	Netinsight II-PD

我々は自社システムをすべてWindowsベースで開発しており、これらのアプリケーションを変更することなく、そのまま運用できることを望んでいました。その結果、ネットワーク・ブート型のデルのThinPCが最適であるという判断に至ったのです」(大嶋氏)

外為どっとコムは、2005年8月に開設した沖縄支店において、まずコールセンター用として10台のThinPCを採用し、業務遂行上、まったく問題なく使用できることを見極めてきた。そして2006年3月、汐留本社に合計100

台のThinPCを配置し、新体制による運用を開始したのである。これに合わせてオフィス内のLANをすべてギガビットEthernetに一新した。これにより、たとえ100台のThinPCを一斉に起動したとしても十分に耐えられる運用環境を整えたのである。

端末メンテナンスなどの 作業負荷を大幅に軽減

情報漏洩防止を主目的に導入されたThin

PCだが、システム運用の合理化といった面でも大きな効果を上げているという。

「すべてがサーバ管理になり、我々IT部門の負荷もかなり軽減されました。例えば、OSやアプリケーションを収めたディスクイメージを何パターンか作成しておけば、ユーザの配置転換や新入社員の配属が行われた際にも、それを割り当てるだけで済みます。いつの間にかクライアントの設定が書き換えら

れて、アプリケーションが正常に動作しなくなるといったトラブルも避けられます。これは非常に大きなメリットです」(大嶋氏)

そして外為どっとコムは、今後の計画として、指紋や静脈などのバイオメトリクス認証を導入することも検討しているという。さらなるセキュリティ強化と運用改善に向けて、ThinPCを活用した新たなITインフラは、すでに次の進化を見据えている。



外為どっとコムに導入されるThinPCのクライアント端末は、Dell Optiplex GX280とデュアル・ディスプレイで構成される



外為ドットコムのThinPCシステムをサポートする(左から)デル 法人営業部 市場開発部 セールス・レプリゼンタティブ 松本健太、アドバンスド・システムズ・グループ テクニカル・セールス・リプレゼンタティブ 田中 聡、法人営業部 アドバンスド・システムズ・グループ システムコンサルタント 吉田博之

FROM DPS 最高レベルのセキュリティ施策を講じ、拡張性と可用性に優れたシステムを設計

「何があっても情報漏洩を防ぎたい」という外為どっとコム様の要件にこたえることを最優先に考え、今回のシステムを設計しました。ユーザ側のクライアント端末としてDell ThinPCを配置するとともに、サーバ側でも「Windows Server 2003 Active Directory」による本人認証や、「Exchange Server 2003」と「Enterprise Vault」によるメール・アーカイブ・システムを構築。さらにファイル・データ取り扱い範囲制限、Web経由での情報漏洩防止、不正端末によるネットワーク接続の検疫、各種ログの取得と監査など、セキュアなシステム環境を実現するプロダクトを採用し、情報漏洩対策をしています。

こうしたセキュリティ対策に加えて重点を置いたのが、システムのパフォーマンス、拡張性、可用性の向上です。外為どっとコム様のシステムは、業務の性質



デル・プロフェッショナル・サービス事業部
コンサルティング第2部 コンサルタント 橋本直敬

上、24時間365日の運用が大前提であり、計画外のシステム停止はあってはなりません。一方、ビジネスの成長とともに年々処理要求も急増していきます。こうした要件に柔軟にこたえられる堅牢なシステムでなければならないのです。そのため、サーバについては冗長化構成を取りつつ、拡張性の高い構成を基本としています。

この設計思想を最も反映しているのが、ThinPCの管理サーバとI/Oサーバです。これは汐留本社で稼働するThin PCクライアントPC群のいわば「指揮者」にあたるサーバであり、冗長構成された4台の「Power Edge 1850」が最適なロード・balancingを図りながら100台のThinPCの運用をコントロールします。高いパフォーマンスと拡張性、可用性を同時に確保するという意味で、これに勝るThinPCサーバ構成はほかにないと考えています。

なお、実際にThinPC端末に配布するディスクイメージは、別途ファイル・サーバに保存しています。こちらは2台の「Power Edge 2850」とSANストレージの「Dell | EMC CX300」にWindows Server 2003のMSCS (Microsoft Cluster Service)を適用したクラスター構成を採用、高い可用性を確保しています。